

大丈夫よ！ お母さん！

教育コーディネーター 中西美沙子



(今回のテーマ)

時代が変わっても

時代は変わります。良いことも悪いことも、その時々で変化しますね。最近、気になることのひとつに「過剰に物やお金に捉われる」ことがあります。知らない間に、時代に染まってしまっているのでしょうか。人が幸福に生きたいと思うのは、自然な感覚です。でも必要以上に、物やお金に捉われるのはどうでしょう。

日本の教育費は、世界で最も高いと聞かれています。私の次女が結婚した相手の妹は、オーストリア人と結婚し、ウィーンに住んでいます。先月、赤ちゃんが生まれました。「日本で産もうか、それともウィーンで？」と迷った末、彼女がウィーンを選んだのは、出産から大学までの費用がすべて国負担だからでした。日本の親の「教育費負担」は、国連で指摘されるほど大きいのに、でもそれに加え、小さなころから「習い事」や「脳のトレーニング」「勉強」にと、親は「教育費」をかけま

す。なぜでしょうか。

東京にでかけた折など、夜の9時、10時という時間に、地下鉄の中で小学生を見かけます。コンビニのおにぎりやサンドイッチを食べています。塾の帰りでしょうか。そういう時、私の心に、痛みに似た感覚が起きます。

「子どもの眼の色」です。私たち大人は、子どもは元気で輝いているものと思っています。でも現実には、そんな呑気なものではありません。地下鉄のシートにもたれた子どもたちの眼は、疲れ切った大人と同じ眼をしているのです。

勉強させることは悪いことではありません。しかし「学ぶこと」が、どんな意味を持つのかという思いが、私には見えてきません。

昔は、教育は「産業」ではありませんでした。学校で勉強し、後は遊ぶのがふつうでした。原っぱや道端で。子ども同士で。

のんびりした時代でしたが、学力が低かったとは思えません。

経済成長とともに、教育のあり方も大きく変わりました。豊かさの恩恵を皆が受けるようになった半面、失くしたものもあります。心が痩せるという恐ろしい表れです。

子どもに必要なのは、心の栄養です。その栄養は、お金や物から得られるものではありません。私は、それを「時の贈り物」と思っています。子どもには、それぞれの個性があります。子どもが持っている顔立ちや声を愛おしいと感じるのも、個性があるからですね。でも、現代では家族の触れ合いさえ、希薄になっていくようです。

先日、東北各地で多くの花火が打ち上げられました。夜空に広がる花火の重なり、「命の輝き」を感じました。震災がなければ生きられたであろう子どもたちが、それを思うと、夏の夜空に遠く上がる花火が、まるで子どもたちの魂を求めているように感じられるのです。

私の主宰している文章教室には、元気で個性的な子どもたちが多くいます。その根にあるものは、「好奇心」というかけがえないものです。それが作られている理由は、親御さんの子どもへの柔らかな思いと、時代の流れを見る判断力があつたからだと感じます。表面的なものに捉われなく生きるのは、難しい時代でもあります。それを避けるための指針は、時代がどんなに変化しても、変わらずにあるものたちへの眼差しではないでしょうか。



Profile

教育コーディネーター
中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クリアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブ ブルー」「建築プロデュースすまい」「食彩いわさか」「ときわ薬局」など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索

ピアノシモでね
中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて!こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)
※お求めは浜松市内の谷島屋で。